

「自分たちで考える、自分たちの未来！！」 持続可能な未来のために 春日式 SDGs！！

氏名	國谷 雅之	学校名	茨城県 つくば市立春日学園義務教育学校
担当教科等	保健体育科	対象学年(人数)	9年 3組(35名)
実践年月日もしくは期間(時数)		2022年11月～12月(8時間)	

【実践概要】

1. 実践する教科・領域:保健体育科		
2. 単元(活動)名:健康な生活と病気の予防		
3. 授業テーマ(タイトル)と単元目標 授業テーマ:「自分たちで考える、自分たちの未来！！」 持続可能な未来のために 春日式 SDGs！！ 単元目標: ・感染症、性感染症の学習を通して、身近な問題に気付くことができる。 ・MDGsとSDGsを比較し、関連性を理解し、世界規模で起こっている問題について考えを深めることができる。 ・感染症について学習したことを踏まえ、自分たちの未来が健康で幸せな生活を送れる方策を考え発信することができる。 関連する学習指導要領上の目標: ・健康と環境について、心身の健康に対する環境の影響について理解できるようにする。 ・また、健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決を目指した活動を通して思考し判断するとともに、それらを表現することができるようにする。		
4. 単元の評価 規準	①知識及び技能	自分たちの身近な環境から、感染症との関連に気付くことができる。
	②思考力、判断力、 表現力等	グループでの話し合い活動を通じて、様々な視点から感染症との関連を考察し、対策を想像することができる。
	③学びに向かう力、 人間性等	グループ活動において、互いに協力しながら意見を交換することができる。
5. 単元設定の 理由・単元の 意義 (生徒観、教材 観、指導観)	<p>【単元設定の理由】 保健体育の学習で感染症の原因とその広がり方や予防の仕方を学習した。世界に目を向けると新型コロナウイルスや様々な感染症が発生している。SDGsの前身であるMDGsでは、目標6に「HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止」があった。それらの感染症にも感染源があり、取り組み次第では防ぐこともできるのではないかと考え、本単元を設定した。</p> <p>【単元の意義】 感染症は他人ごとではなく自分ごとであり、身近な問題である。大人だけではなく、子どもでもかかる危険性もある。これから地元を離れ今までは違う広い世界へ羽ばたいていく9年生(中学3年生)が感染予防の知識を身につけることで、健康で幸せな生活を送っているのではないかと考える。</p> <p>【児童／生徒観】 本学級は、優しく素直な生徒が多い。普段から物事に対して興味関心を持ち、意欲的に授業に取り組んでいる。新型コロナウイルスとの共存生活も3年が経とうとしている中で感染対策を心がけながら生活している。そして新型コロナウイルスだけでなく、様々な感染症にも目を向け、熱心に考え意見を出し合う様子が見られる。</p> <p>【指導観】 生徒が感染症の問題をSDGs、多様性、多文化共生の視点から捉えられるよう工夫した</p>	

い。グループごとに SDGs の目標を設定し、今の自分たちにできることや自分たちが成長したときに達成可能なアイデアを出し合うことで幅広く考えさせたい。他のグループの発表を聞くことで自分ごとに置き換えられるよう支援したい。

6. 単元計画(全8時間)				
時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	保健体育 「感染症の原因とその広がり方」	病原体の侵入する道筋(感染経路)を理解する。	・様々な感染症を知り、その原因を理解する。 ・どのような感染経路で感染症にかかるのかということを理解する。	・パワーポイント ・学習ノート
2	保健体育 「感染症の予防」	病原体の発生源を知り、適切な対策を取る方法を知る。	・発生源を知り、自分たちの身を守るためにはどのような予防方法があるのかを理解する。 ・生活習慣や身の周りの環境に着目し、自分たちができる対策を考える。	・パワーポイント ・学習ノート
3	保健体育 「性感染症の予防」	性的接触による感染症の現状や、効果的な予防方法について理解する。	・性感染症に対する知識と効果的な予防方法について理解する。 ・起こりうる症状や専門的な医療機関を知る。	・パワーポイント ・学習ノート
4	保健体育 「エイズの予防」	エイズ/HIVという病気の社会問題と予防方法を理解する。	・エイズ/HIV の世界的な感染状況を知り、起こりうる影響を理解する。 ・感染に対する知識と治療方法を理解する。	・パワーポイント ・学習ノート
5	保健体育 「MDGs と SDGs について考えよう。」	MDGs と SDGs の違いを知り、世界規模で起こっている感染症について理解を深める。	・MDGs における目標 6「HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止」とその達成状況を知る。 ・身近な感染症を調べ、意見交換をする。	・パワーポイント ・教師国内研修の写真
6	保健体育 「世界に目を向け、自分たちの身近な世界と比較しよう。」	感染症を防ぎ、健康な生活を送るための方法について理解を深める。	・世界に視点をあて、自分たちと世界の国々を比較する。 ・世界の現状を考え、SDGs の視点をもって、自分たちの身近な生活と比較し、グループでまとめる。	・パワーポイント ・教師国内研修の写真 ・一人一台端末
7 本時	保健体育 「感染症を防ぐ健康な生活について考え発信しよう。」	自分たちの考えをまとめ発信する。 他のグループの発信を自分ごととして捉える。	・感染症を防ぎ、自分たちが健康で幸せな生活を送るために何ができるか考えをまとめる。 ・まとめたものを他者に発信する。	・パワーポイント ・学習カード ・一人一台端末
8	保健体育 「クラスの発信をもとに、自分たちに置き換えて振り返ろう。」	グループごとの発信を振り返り、健康で幸せな生活を送るための方法と行動を考える。	・他者の考えをもとに自分たちのグループで意見交換を行い、実践的プランを考える。	・パワーポイント ・学習カード(振り返りカード) ・一人一台端末

7. 本時の展開(7時間目)
 本時のねらい:SDGs の意義や目標を達成するための実践的方法を考え、自分たちで課題解決する力を高める。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	1. 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 感染症から身を守り、健康で幸せに生活するためにはどのような方法があるだろうか。SDGs の視点から考えよう!! </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に本時の流れを示し、確認する。 ・感染症を防ぎ、健康で幸せな生活を送るために何ができるか、どのようなアイデアがあるかという視点を確認し、まとめるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板 ・SDGs カード
展開 (40分) 発表 3分× 8班	2. 授業研究を参観される方の自己紹介を行う。これまでの授業を振り返り、グループで意見を出し合い考える。 3. グループごとに決めた SDGs の各目標に合わせた視点で、発信する内容をまとめる。 4. グループごとに SDGs を踏まえた取り組みで、身近で自分たちにできることや、改善するアイデアを発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分ごととして捉えて考えるよう促す。他者にわかりやすく伝える意識をもつよう促す。 ・他者の意見を自分たちのグループにも置き換え、捉えさせる。 	
まとめ (5分)	5. 本時で学習したことを、学習カードに書き込み、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の振り返りを行い、次時の学習につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末 ・学習カード

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

- ・感染症や環境について関心を持ち、自分たちの置かれた生活環境を見つめ課題を解決しようとすることができた。
- ・SDGs の視点から感染症を予防する方法を発見し、それを他者に発信することができた。
- ・他者の意見を肯定的に捉え、グループで協働して学習に取り組むことができた

9. 学習方法及び外部との連携

- ・生徒同士と教員が協働した授業になるよう、教師国内研修で得た経験(茨城 NPO センター・コモンズ、エスコラ・オプション、アジア学院、JICA 筑波研修員との交流、水海道中学校夜間学級)を生徒に共有した。
- ・今置かれている自分たちの生活環境が当たり前ではないことと捉えることで、自分ごととして課題に着目し取り組むことができた。

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

- ・9年生(中学3年生)の生徒を中心に、保健体育の授業において SDGs について考える授業を展開した。また学年教員にも授業内に入ってもらい、「共に学ぶ」ことにも重点を置いた。
- ・本研修で得た経験を、広く発信していきたいと考えている。

【自己評価】

11. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症や病気について保健体育で学習したことを、SDGs の視点で捉えることが難しかった。生徒たちにどのように伝えていけばいいのかということも同様であった。 ・17 の目標のうち8つの目標(8班のため)で考えさせた。目標の項目によっては中学生という立場上、今取り組むことが難しい課題も見えてきた。その場合は、自分たちが大人になったときにできそうなアイデアを発案させた。
-----------	---

<p>12. 改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症や病気というものに対して、抵抗力のある若い世代の中学生にとっては、命の危険を脅かす重大な問題という認識をもちづらいところもあった。そのため世界の現状や同じ年齢ぐらいの子どもたちが数多く亡くなっていることを受け止められるよう数値を示すことができれば、より自分ごととして捉えられたように思う。 ・自分たちにできることや、大人になったときにできるようなアイデアを提案し発表した。そのことを今後の行動プランとして時間をかけて取り組んでいければ、より自分たちの考えが具体化し、生活の一部につながっていくと思う。授業という限られた時間の中では捉えきれないことが多いので、これをきっかけとして様々なことを考え、自分の生活に生かしていくことが重要と考える。
<p>13. 成果が出た点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsを学習する前にMDGsに触れ、2015年報告で目標6「HIV／エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止」の目標において、世界的にみると一定の成果があったことを紹介した。それによって生徒たちの中に「取り組み次第では感染症を減らすことができるのではないか」といった発想が芽生えたように感じる。 ・感染症や健康で幸せな生活を送るための方法をグループで協働的に創造した。特に世界の開発途上国の立場で見たときに、「物資などの援助協力も必要だが、技術を育成し、開発途上国の人々が健康で幸せになれるような支援が必要である」といった考えや、社会科の授業で行った投資のシミュレーションをSDGsに結び付けるといった教科横断的なアイデアも発信された。
<p>14. 学びの軌跡(児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>The image shows a collection of student work related to SDGs. It includes several hand-drawn posters for different goals, each with an icon and handwritten Japanese text. The posters are arranged in a grid-like fashion. At the bottom of the page, there are sections titled '振り返り' (Reflection) with more handwritten notes.</p>

5班
6 安全な水とトイレを世界中に
2020年までに1人1日1リットル以上、安全な水を確保し、トイレを利用できるようにする。

11 住み続けられるまちづくりを
社会的弱者へのサポート、居住の都市化により、需要が25%増、高齢者への、発展途上国に必要。→交通手段。

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
電気を活用する人が増える。水素エネルギーの普及を促す。再生可能エネルギー、燃料電池車。

8 働きがいも経済成長も
AI・IoT・クラウドを駆使し、投資を促進。→経済活性化。VET（職業訓練）を推進する。

振り返り
気づいたことを書いてみよう！
SDGsの目標は、社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。

6班
6 安全な水とトイレを世界中に
清潔な水とトイレを世界中に確保し、衛生を向上させる。

11 住み続けられるまちづくりを
都市化の進展により、都市の発展を促す。

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
再生可能エネルギーの普及を促す。

8 働きがいも経済成長も
デジタル技術の活用により、経済成長を促進する。

振り返り
気づいたことを書いてみよう！
SDGsの目標は、社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。

5班
6 安全な水とトイレを世界中に
SDGsの目標は、社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。

11 住み続けられるまちづくりを
都市化の進展により、都市の発展を促す。

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
再生可能エネルギーの普及を促す。

8 働きがいも経済成長も
デジタル技術の活用により、経済成長を促進する。

振り返り
気づいたことを書いてみよう！
SDGsの目標は、社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。

5班
11 住み続けられるまちづくりを
都市住民の4人に1人がスラムで生活

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
電力を利用できない人が増える。風力、太陽光による発電。CO2を発生しない車の開発。

8 働きがいも経済成長も
投資→経済活性化。リモートワークを促進し、都市圏の人口を減少させる。

振り返り
気づいたことを書いてみよう！
自分たちでも世界の持続可能な社会の実現のためにできることがある。身近にたくさんあると気づいたので、今から、簡単なことから始めていこう！

7班
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
再生可能エネルギーの普及を促す。

8 働きがいも経済成長も
デジタル技術の活用により、経済成長を促進する。

振り返り
気づいたことを書いてみよう！
SDGsの目標は、社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。

5班
6 安全な水とトイレを世界中に
清潔な水とトイレを世界中に確保し、衛生を向上させる。

11 住み続けられるまちづくりを
都市化の進展により、都市の発展を促す。

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
再生可能エネルギーの普及を促す。

8 働きがいも経済成長も
デジタル技術の活用により、経済成長を促進する。

振り返り
気づいたことを書いてみよう！
SDGsの目標は、社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。社会の課題を解決するために、持続可能な社会を実現するための目標。

<p>15. 授業者による自由記述</p>	<p>私は今まで国際理解教育や開発教育はもちろんのこと、世界で起こっている問題や課題についてあまり考えることがなかった。3年前に現任校に赴任した時に国際理解教育を考える上で、二つのきっかけがあった。一つ目は、外国籍の児童生徒や外国にルーツのある児童生徒が数多く在籍し、他の児童生徒と遜色なく授業に取り組み、違和感なく学校生活を送っている様子を見て衝撃を受けた。二つ目は、同僚の先生方がつくばスタイル科(総合的な学習の時間)や各教科において日常的にSDGsに関連させる授業や取り組みをしているのを目にした。SDGsやそれを踏まえた授業経験のない私にとっては自分自身の知識の低さにとてもやるせない気持ちになった。この経験によって自分の幅をもっと広げていかなければならないと痛感し、JICA 筑波の教師国内研修を受講した。</p> <p>研修では多くの経験や体験をさせていただき、そして今回の授業実践に生かすことができた。授業実践を保健体育の授業として行うことや感染症、健康とどのように関連付けていくかということに悩むこともあったが、生徒同士がグループ活動において自分たちの考えを教科横断的かつ発展的に捉えて発信してくれた。そのお陰で自分が悩んでいたことが吹き飛び、生徒の発想の豊かさや創造性に感心させられた。</p> <p>これからの社会は答えが一つでないことがたくさんあるように感じる。その社会を生徒の湧き上がるアイデアと柔軟性で切り開いていってほしいと思う。</p>
-----------------------	---

参考資料:

- ・「総合的な学習(探求)の時間のアイデア集」独立行政法人国際協力機構 東京センター
- ・「SDGs カードを活用した授業実践事例集」茨城県教育研修センター/独立行政法人国際協力機構 筑波センター
- ・「SDGs カード」 JICA
- ・「世界につながる教室」授業で使える映像教材・PDF 教材 JICA
- ・教師国内研修フィールドワーク写真